

長久手市文化交流拠点  
の構想づくりに向けた  
ワークショップ

NEWS LETTER

“より魅力的な、文化の家・中央図書館・桧ケ根公園エリアについて考えてみませんか？”

8月2日（土）の午前、長久手市中央図書館で、より魅力的な、文化の家・中央図書館・桧ケ根公園エリアについて考える場としてワークショップを開催しました。当日は総勢11名にご参加いただき、とても活発なワークショップとなりました！

DAY3テーマ：“すこし未来のこれからの場”を描こう！

1. オープニング&ふりかえり

第3回のオープニングは扇形での配席からスタート。オープニング、当日の流れを説明しました。その後、ニュースレターを見ながら、第1回、第2回のふりかえりを行いました。グループワークは、「文化の家」、「公園」、「図書館」グループを用意し、参加者がワークしたいグループを選んで着席する方式としました。



2. グループワーク

文化の家グループ 音楽・風景・防災



- 音楽や芸術によるにじみ出しがあり、エリアの文化振興と交流の拠点とする。
- 多世代が自然と繋がることができる施設とする。
- 窓からの景色を眺めながらのんびりすごせる施設とする。
- 障がい者、高齢者の方でも集まりやすい施設とする。
- 屋上に太陽光発電施設を設置する
- 炊き出しやテント生活の訓練を行う。

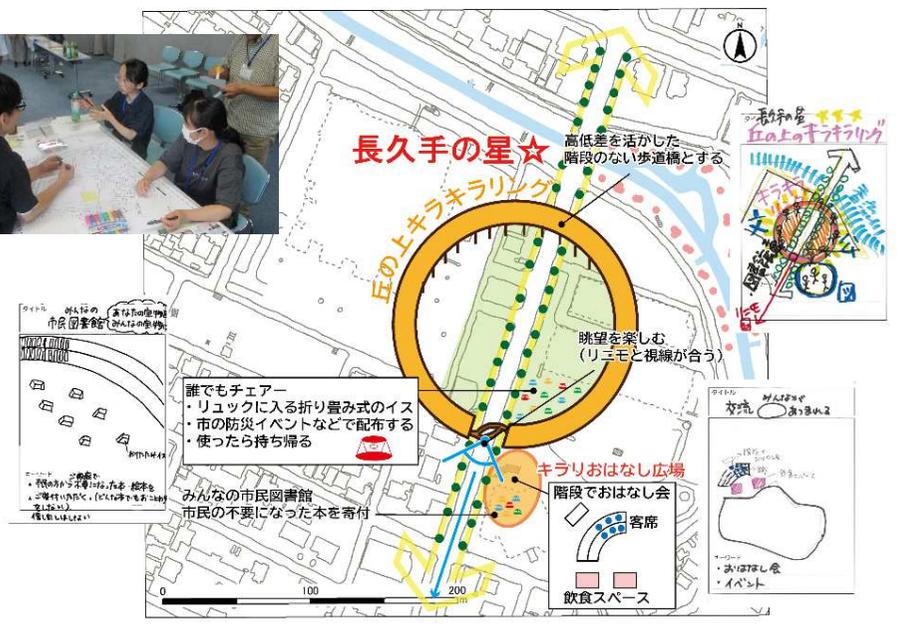


公園グループ 香流川デッキ



- 木陰や水辺の自然空間を活用して多世代が集まることができるピクニックを行う。
- 人工地盤で約3階のデッキで図書館から文化の家をつなぎ、香流川にもアクセスしやすい足場を設ける。
- 文化の家や図書館で行われているイベントを継続して行う。
- 下水処理場の上に公共施設を積む
- 子供が遊ぶことができる水辺を整備する





- エリア全体を長久手の星として位置付け、道路で分断されている「文化の家」「中央図書館」「桧ヶ根公園」を「キラキラリング（円形の歩道）」で繋ぐ。
- 道路や歩道橋から見える位置にある図書館前の階段広場を「キラリおはなし広場」と名付けイベントを行う。
- リュックで持ち運びできる折り畳み式のイスを配布する。
- 不要な本を寄付できる本棚を設ける。
- イベントとしてお話会、紙芝居、人形劇などを行う。



### 3. エリアの将来像 ～自分なら何ができる？～

各グループの発表後に、吉村さん（日本福祉大学教授）との対話を通じて、みなさんに「自分なら何ができる？」について、複数名の方に発表していただきました。

#### みなさんなら何ができる？

イベントで物販・飲食等のショップを出店できるとより楽しい場所になると思っています。また演劇関係者の知り合いも多くいるため、そのような方々をイベントにつなげる、プロデューサーのような立ち回りならできるかも…と思います。



不要になった本（どのよな本でもOK）を寄付していただき、自由に読むことができる「みんなの市民図書館」を企画してみたいと思います。



#### 市職員も…

ファッションが好きで、多くの服持っています。若い子にとっては新鮮なものもあると思うので、服の物々交換をきっかけとした世代間交流してみたいと思います。



### 4. まとめ

全3回を通じた総括を、最後に吉村さんからいただきました。



公共空間を変えるには、みなさんが自分事として捉え、それぞれがやれることを考えることが大切だと思います。一人では、難しいと思うことでも、仲間を集めたり、コラボレーションを考えてみるなど、様々な関わり方の工夫ができると思います。

また、大きなことに挑戦するのは難しいですが、小さいことから始め、活動に協力してくれる仲間を集めましょう。そして、みなさん一人ひとりが、やりたいことや得意なことを活かして、みんなで公共空間を使っていくことが大切です。今回のWSを通して、公共空間を使うプレイヤーに挑戦してみようという方がいると期待しています。



【発行】  
長久手市都市計画課  
【TEL】  
0561-56-0622  
【E-mai】  
keikaku@nagaku  
te.aichi.jp